

令和6年度奥州市病院事業会計決算書

【財務三表解説書】



奥州市病院事業会計決算の内容は、市の広報誌や医療局ホームページでお知らせしていますが、病院事業会計は民間の企業と同じように『複式簿記』を使って会計処理を行っているため、決算の内容は『損益計算書』や『貸借対照表』などの財務諸表を用いて表されます。これは、市の一般会計や特別会計のようにお金の出入り（歳入、歳出）のみを示したもの（『単式簿記』）と異なり、複式簿記を見慣れない方にとっては少し難しい内容となっています。

そこで、少しでもその内容をご理解いただくために決算の平易な解説書を作成しました。この解説書は、『損益計算書』『貸借対照表』『キャッシュ・フロー計算書』の財務三表を中心に、決算の内容をなるべくわかりやすい言葉で説明したものとなっていますので、病院事業会計決算書とともにご覧いただければ幸いです（※）。

※ 本書は、わかりやすく説明するため一部決算書の表現と異なる箇所があります。

奥州市病院事業会計決算の概要

1. 業務量

(税抜、単位：人、円、%)

			R6	R5	増減(R6-R5)
患者数	入院	年間(人)	32,821	29,715	3,106
		1日平均(人)	89.9	81.2	8.7
		1日平均単価(円)	35,944	34,938	1,006
	外来	年間(人)	123,220	120,700	2,520
		1日平均(人)	509.2	496.7	12.5
		1日平均単価(円)	9,441	9,685	△244
	病床利用率(%)		42.4 [55.5]	38.3 [50.1]	4.1 [5.4]

※入院診療日数は365日、
外来診療日数はR6が242
日、R5が243日です。

※病床利用率は、感染症病床
(総合水沢病院4床)を除く一
般病床の利用率です。なお、
下段の[]書は休床分を除く
稼働病床の利用率です。

2. 収益的収支の状況

(税抜、単位：千円)

		R6	R5	増減(R6-R5)
収入	医業収益(A)	2,719,879	2,527,121	192,758
	うち入院収益	1,179,715	1,038,184	141,531
	うち外来収益	1,107,837	1,112,825	△4,988
	医業外収益(B)	1,218,453	1,351,929	△133,476
	訪問看護事業収益(C)	55,436	56,162	△726
	訪問看護事業外収益(D)	60	37	23
	特別利益(E)	1,224	2,071	△847
	収入計(F)	3,995,052	3,937,320	57,732
支出	医業費用(G)	4,350,821	4,025,069	325,752
	うち給与費(退職給付費除く)	2,435,813	2,274,371	161,442
	うち材料費	442,769	419,640	23,129
	うち減価償却費	292,931	246,033	46,898
	医業外費用(H)	169,549	189,442	△19,893
	訪問看護事業費用(I)	75,135	78,163	△3,028
	うち給与費(退職給付費除く)	67,393	72,045	△4,652
	特別損失(J)	3,300	45,024	△41,724
	支出計(K)	4,598,805	4,337,698	261,107
	医業損益(A-G)	△1,630,942	△1,497,948	△132,994
経常損益(A+B+C+D)-(G+H+I)		△601,677	△357,425	△244,252
純損益(F-K)		△603,753	△400,378	△203,375

※医業収
益、医業費
用、訪問看
護事業費用
の内訳は、
それぞれ主
なものを抜
粋して記載
しています。

※千円単位
で金額を記
載している
ため、合計
額が合うよ
うに端数を
調整してい
る箇所があ
ります。

※収益的収支 病院事業の1年間の経営活動によって生じる収支です。

3. 資本的収支の状況

(税込、単位：千円)

		R6	R5	増減(R6-R5)
収入	企業債	79,500	11,600	67,900
	出資金	248,919	212,719	36,200
	補助金	67,021	14,253	52,768
	固定資産売却代金	0	300	△300
	収入計	395,440	238,872	156,568
支出	建設改良費	319,841	212,921	106,920
	企業債償還金	162,783	157,272	5,511
	投資	39,600	23,600	16,000
	支出計	522,224	393,793	128,431

※資本的収支 施設の整備や医療機器の購入(建設改良)、
医師養成奨学金の貸付(投資)などにかかる収支です。

※資本的支出に対して資本的収入が不足している額は、
過年度分損益勘定留保資金で補填しました。

令和6年度の収益的収支では、入院・
外来ともに患者数が増加しており、外来
収益は平均単価が下がったことで減少し
たものの、医業収益としては前年度比で
約1億9千万円増加しました。

しかし、医業外収益は新型コロナウイ
ルス感染症関連補助金の終了などにより
約1億3千万円減少しており、また、人
件費や物価の高騰により医業費用が大幅
に増加したことから、純損益では約6億
円の赤字(純損失)となりました。

資本的収支では、衣川診療所のスプリ
ンクラー設置工事により建設改良費が約
1億円増加しました。この工事は借入金
(企業債)と補助金を主な財源として実施
しており、資本的収入もそれぞれ増加し
ています。

令和6年度 奥州市病院事業損益計算書（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）

損益計算書とは...

損益計算書は、1年間の収入(収益)と支出(費用)からどれだけの利益(または損失)が生じたのかを示した「経営成績表」です。この計算書から病院事業経営が黒字なのか赤字なのかがわかります。収入、支出とも大まかな項目に分かれていて、収支の偏りがわかるため、経営分析を行い、次年度以降の方針を立てることができます。

病院事業の本業である医業部門の収入と支出の額を表しています。

医業収益には診療行為で得た収入のほか、健康診断やワクチン接種で得た収入、市の一般会計からの医業に対する負担金(繰出金)も計上されます。

医業収益①から医業費用②を引いたものが医業損益③です。

令和6年度は医業費用が医業収益を上回ったため、**約16億3,100万円の赤字(医業損失)**となりました。

病院事業は医業部門で黒字(医業利益)が出せるよう企業努力をしていく必要があります。

1 医 業 収 益	
(1) 入院収益	1,179,714,951
(2) 外来収益	1,107,837,481
(3) その他医業収益	424,439,872
(4) 本部費配賦額	7,886,734
計	2,719,879,038 ①
2 医 業 費 用	
(1) 給与	2,546,314,694
(2) 材料	442,768,740
(3) 経費	1,045,875,704
(4) 減価償却費	292,931,125
(5) 資産減耗費	5,977,418
(6) 研究修費	9,066,375
(7) 本部費配賦額	7,886,734
計	4,350,820,790 ②
医 業 損 失	1,630,941,752 ③

本業以外の収入と支出の額を表しています。

この部門の主な収入は、国県補助金や市の一般会計からの負担金(繰出金)です。

主な支出は企業債の借入や医療機器などのリース契約により生じる支払利息です。雑損失は消費税の申告納税額の計算過程で生じるもので、現金支出は伴いませんが、損失として計上されます。

3 医 業 外 収 益	
(1) 受取利息及び配当	4,707,069
(2) 補助金	42,157,200
(3) 一般会計負担金(繰出金)	1,112,989,000
(4) 患者外給食収益	434,897
(5) 長期前受金戻入	30,988,870
(6) その他医業外収益	27,176,056
計	1,218,453,092
4 医 業 外 費 用	
(1) 支払利息	13,011,809
(2) 患者外給食材料費	0
(3) 雑損失	156,537,200
計	169,549,009
	1,048,904,083

訪問看護事業の収支を明らかにするため、本業である医業部門から独立して表しています。

訪問看護事業収益④から訪問看護事業費用⑤を引いたものが訪問看護事業損益⑥です。支出が収入を上回っているため、約2,000万円の赤字となりました。

5 訪 問 看 護 事 業 収 益	
(1) 外来収益	55,435,596
計	55,435,596 ④
6 訪 問 看 護 事 業 費 用	
(1) 給与	70,966,329
(2) 材料	0
(3) 経費	4,143,497
(4) 減価償却費	0
(5) 研究修費	25,000
計	75,134,826 ⑤
	△19,699,230 ⑥
7 訪 問 看 護 事 業 外 収 益	
(1) 補助金	0
(2) その他医業外収益	60,256
計	60,256
8 訪 問 看 護 事 業 外 費 用	
計	0
	60,256

各収益から各費用を引いたものが経常損益⑦です。1年間の病院事業運営の結果、黒字であれば経常利益、赤字であれば経常損失となります。

令和6年度は支出が収入を上回り、**約6億200万円の赤字(経常損失)**となりました。前年度と比較して、医業収益は約1億9,300万円増加しましたが、補助金が約2億1,500万円減少したことや、給与費が約2億600万円増加したことで赤字額は約2億300万円増加しました。

経 常 損 失 601,676,643 ⑦

決算対象年度以前の取引によるものや、通常の事業運営によらない臨時的な収入と支出は、それぞれ特別利益、特別損失として別に表します。

主なものは診療報酬の査定によって生じた損益や固定資産の売却損益、災害によって生じた損失などです。

9 特 別 利 益	
(1) 固定資産売却益	0
(2) 過年度損益修正益	1,224,252
(3) その他特別利益	0
計	1,224,252
10 特 別 損 失	
(1) 固定資産売却損	0
(2) 過年度損益修正損失	2,907,265
(3) その他特別損失	392,801
計	3,300,066
	△2,075,814 ⑧

経常損益⑦に特別損益⑧を加えたものが当年度の純損益⑨で、1年間の事業運営の最終成績となります。

令和6年度は最終的に**約6億400万円の赤字(純損失)**となりました。これを前年度からの繰越欠損金⑩に加えると、当年度で**未処理欠損金**(いわゆる累積赤字)⑪は**約22億5,000万円に増加**しました。

当 年 度 純 損 失	603,752,457 ⑨
前 年 度 繰 越 欠 損 金	1,645,873,721 ⑩
当 年 度 未 処 理 欠 損 金	2,249,626,178 ⑪

令和6年度 奥州市病院事業会計貸借対照表（令和7年3月31日）

貸借対照表とは...

貸借対照表は、決算年度末時点において所有するすべての資産、負債及び資本の残高（価値）を表す報告書です。
 どのような資産（負債）をどのような形で持っているかがわかるため、企業の「健康診断書」のような役割を果たします。
 資産合計と負債資本の合計額が必ず一致し、左右のバランスが均衡しているため『バランスシート』ともいいます。

（単位：円）

資産のうち1年以内に現金化できるものを流動資産に、できないものを固定資産に計上します。
 固定資産のうち投資は、医師養成奨学資金としてこれまで貸付を行った総額です。

貸借対照表から読み取れる 奥州市病院事業会計の主な指標

・流動比率

流動資産／流動負債×100

=405.9% **余力あり**😊

支払い能力があるかどうかを判断する指標。200%以上が望ましいとされています。

・現金預金比率

現金預金／流動負債×100

=342.1% **余力あり**😊

流動負債に対する現金預金の割合。20%以上が望ましいとされています。

・有形固定資産減価償却率

有形固定資産減価償却累計額／
 有形固定資産のうち償却対象資産×
 100=73.5% **老朽化進行中**😓
 有形固定資産の減価償却の進行具合を表します。比率が高いほど老朽化度合いが高いといえます。

固定資産	4,099,517,341	固定負債	798,029,283
有形固定資産	3,956,014,867	企業債	302,313,431
土地	825,805,793	リース債務	495,715,852
建物	9,176,187,782	流動負債	804,934,872
構築物	384,517,077	企業債	149,234,131
器械備品	1,433,313,546	リース債務	170,017,032
車両	16,123,525	未払金	315,927,709
リース資産	812,550,461	引当金	169,756,000
減価償却累計額	△8,692,483,317	その他流動負債	0
無形固定資産	1,102,474	繰延収益	199,025,592
電話加入権	1,102,474	長期前受金	752,636,703
投資	142,400,000	収益化累計額	△553,611,111
長期貸付金	142,400,000	負債合計	1,801,989,747
流動資産	3,267,360,672	資本金	7,484,336,169
現金	2,753,354,348	剰余金	△1,919,447,903
未収金	485,785,166	資本剰余金	202,500,445
貯蔵品	28,221,158	利益剰余金	△2,121,948,348
その他流動資産	0	資本合計	5,564,888,266
資産合計	7,366,878,013	負債資本合計	7,366,878,013

固定負債と流動負債は他者へ返済（支払い）を行わなければならないもので、支払い期限が一年以内であるものは流動負債に、支払い期限が1年を超えるものは固定負債に計上されます。

繰延収益は、医療機器の購入や施設整備の際に交付を受けた国県補助金などです。

資本には、資本金やこれまでの営業活動で獲得した利益、積立金などが計上されます。
 奥州市病院事業会計には繰越欠損金があるため、利益剰余金の額はマイナスで表示されています。

《資産合計》

持っている資産の状態を表しています。

《負債資本合計》

資産をどのように獲得したのかを表しています。

令和6年度奥州市病院事業会計キャッシュ・フロー計算書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

キャッシュ・フロー計算書とは...

キャッシュ・フロー計算書は、**1年間の現金の増減を表す報告書**です。

貸借対照表では年度末時点での現金の残高はわかりますが、この計算書によってどのような活動(理由)で増減したかを知ることができます。

令和6年度は、業務活動及び投資活動で現金が大きく減少しており、財務活動では借入により現金が増加したものの、**トータルで約4億3,400万円現金が減少し、年度末時点の現金残高は27億5,335万4,348円**となりました。

安定した病院事業の運営のためには、業務活動により資金(現金)を確保できるよう、引き続き経営改善を進めていく必要があります。

(単位：円)

I	業務活動によるキャッシュ・フロー	
	当年度純損益	△603,752,457
	減価償却費	292,931,125
	長期前受金戻入額	△30,988,870
	受取利息	△4,707,069
	支払利息	13,011,809
	固定資産除却損	5,398,667
	固定資産売却損益(△は益)	0
	その他非資金損益(△は益)	13,148,400
	未収金の増減額(△は増加)	△9,032,770
	たな卸資産の増減額(△は増加)	△719,728
	未払金の増減額(△は減少)	3,113,664
	引当金の増減額(△は減少)	6,458,398
	小計	△315,138,831
	利息の受取額	4,707,069
	利息の支払額	△13,011,809
	計	△323,443,571
II	投資活動によるキャッシュ・フロー	
	固定資産の取得による支出	△159,417,274
	固定資産の売却による収入	0
	固定資産取得に係る国庫補助金等による収入	67,021,000
	貸付による支出	△39,600,000
	計	△131,996,274
III	財務活動によるキャッシュ・フロー	
	企業債発行による収入	79,500,000
	企業債償還による支出	△162,783,077
	リース資産債務の返済による支出	△144,510,340
	追加出資による収入	248,919,000
	計	21,125,583
IV	資金増加額	△434,314,262
V	資金期首残高	3,187,668,610
VI	資金期末残高	2,753,354,348

当年度純損益は損益計算書の当年度純損失の額と同じ！

「業務活動によるキャッシュ・フロー」は、病院事業の営業活動によってどのくらい資金(現金)を稼ぐことができたかを表します。
令和6年度は**約3億2,300万円現金が減少**しました。
通常「投資活動によるキャッシュ・フロー」と「財務活動によるキャッシュ・フロー」では現金が減少しますので、「業務活動によって現金を増加させなければ現金は減る」ということになります。

未収金、たな卸資産、未払金、引当金は前年度末時点のそれぞれの金額(残高)と比較して増減した額を表します。これらの年度末時点の残高は、貸借対照表に示されています。

受取利息は預貯金利息で、支払利息は借金(企業債)の利息や支払ったリース料の利息相当額のことです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、医療機器の購入や建物の増改築などの建設改良、医師養成奨学金の貸付といった投資活動にどのくらい資金(現金)を使ったかを表します。
令和6年度は**約1億3,200万円現金が減少**しました。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、企業債の借入と返済の額、支払ったリース料の元本相当額がどれくらいであったか、また一般会計からの出資金がいくらであったかを表します。
令和6年度はスプリンクラー整備のための借入が増えたことで**約2,100万円現金が増加**しました。

奥州市病院事業経営指標の推移

経営指標とは…決算書の数値を用いて企業の経営状況を表した指標のことで、いくつかの指標を掛け合わせて分析をしたり、経年比較や類似他団体との比較によって、経営の現状を客観的に把握することができます。奥州市病院事業の事業報告書では、以下の3つの指標を掲載していますので、それぞれ解説していきます。

1. 経常収支比率【(経常収益／経常費用) × 100】

	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
病院事業全体	86.9%	91.7%	121.0%	115.7%	90.5%
総合水沢病院	80.8%	88.9%	134.6%	129.8%	88.3%
まごころ病院	94.1%	91.5%	97.6%	92.7%	91.7%
前沢診療所	93.4%	108.3%	110.6%	102.0%	94.2%
衣川診療所	101.0%	95.6%	100.7%	95.3%	97.3%
衣川歯科診療所	106.9%	124.4%	120.7%	95.1%	102.5%

経常収支比率は、経常費用（医業費用＋医業外費用＋訪問看護事業費用）に対する経常収益（医業収益＋医業外収益＋訪問看護事業収益）の割合を示す指標で、**通常の病院活動による収益状況を表しており、100%以上であれば単年度黒字、100%未満であれば赤字の状態となります。**令和3～4年度は新型コロナウイルス感染症関連の補助金により、病院事業全体では100%以上となったものの、令和5年度以降は再び100%未満の状態が続いています。

2. 修正医業収支比率【(医業収益＋訪問看護事業収益－他会計負担金) / (医業費用＋訪問看護事業費用) × 100】

	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
病院事業全体	57.4%	57.6%	63.4%	56.9%	54.4%
総合水沢病院	56.6%	55.0%	65.3%	56.3%	52.1%
まごころ病院	71.5%	70.7%	70.3%	68.8%	68.8%
前沢診療所	37.6%	40.7%	38.5%	33.4%	30.4%
衣川診療所	36.2%	49.0%	47.8%	47.8%	48.4%
衣川歯科診療所	55.3%	56.2%	54.3%	49.5%	51.7%

修正医業収支比率は、医業費用に対する修正医業収益（市の一般会計からの医業に対する負担金を除いた医業収益）の割合を示す指標で、**本業である医業活動で生じる医業費用が、医業収益でどの程度賄えているかを表しています。**水沢病院とまごころ病院では前年度を上回ったものの、依然として、本業である医業活動では利益を上げられていない状況が続いています。
※医業収益には訪問看護事業収益を、医業費用には訪問看護事業費用を含みます（R 6より変更）。

3. 病床利用率【(年延入院患者数／年延病床数) × 100】

	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
病院事業全体	42.4% [55.5%]	38.3% [50.1%]	36.1% [47.2%]	39.8% [52.1%]	41.3% [54.0%]
総合水沢病院	36.3% [55.5%]	31.0% [47.4%]	27.7% [42.3%]	33.0% [50.3%]	35.9% [54.8%]
まごころ病院	71.5%	66.2%	67.4%	66.6%	64.7%
前沢診療所	(休床)	(休床)	(休床)	(休床)	(休床)
衣川診療所	15.4%	23.3%	20.6%	24.3%	22.8%

病床利用率は、年延病床数（許可病床数×入院診療日数）に対する年延入院患者数（毎日24時現在の入院患者数に当日の退院患者数を加えたもの）の割合を示し、**病院の施設が有効に活用できているかを判断する指標です。**とくに水沢病院は医師不足による休床等の影響で利用率が低く、病床維持のための職員配置によって生じる経費に見合う収入が得られていません。
※一般病床の利用率を記載しています。なお、下段の〔 〕書は休床分を除く稼働病床の利用率です。

用語解説

本部費配賦額

診療行為を行わない管理部門（経営管理部）の収支を均衡させるための経費など、各病院・診療所間で調整が必要な経費を計上する科目のこと。各病院・診療所側は費用として経営管理部へ支出し、経営管理部は同額を収入するもの。

減価償却費

医療機器や建物などの固定資産は使用期間が長期間に渡るため、法律によって定められた使用年数（耐用年数）で割って1年毎の金額を計算し、毎年費用として計上するもの。

資産減耗費

病院が持っている固定資産が劣化などにより使用できなくなり廃棄する場合に、減価償却が終わっていない部分を資産から除くための費用（固定資産除却費）と、薬品などの貯蔵品が破損などにより使用できなくなった場合に、帳簿から除く際の費用（たな卸し資産減耗費）のこと。

長期前受金戻入

医療機器や建物などの固定資産を国県補助金などを活用して整備した場合、耐用年数で割って1年毎の金額を計算し、毎年収入として計上するもの。

減価償却費の逆バージョン（収入版）、と覚えればわかりやすい！

未収金

決算対象年度の収入として金額が確定しているが、年度末時点でまだ入金がないもの。

貯蔵品

年度末時点で未使用である薬品や診療材料などの残高のこと。

企業債

医療機器の購入等のために行った借金のこと。

医療機器は使用効果が複数年に渡るため、負担の平準化を図る効果もある。支払い期限が1年以内のものは流動負債に、1年を超えるものは固定負債に計上され、これらを合わせた金額が借金の残高となる。

未払金

決算対象年度の支出として金額が確定しているが、年度末時点でまだ支払いが完了していないもの。

引当金

将来発生する費用や損失に備えるため予め費用として準備しておく見積額。病院事業会計では主に翌年度6月に支払うボーナスのうち、決算対象年度に起因する分（12月から3月分）を計上。